

輸出事業計画

※申請者名：JA島原雲仙、品目：いちご



1. 輸出における現状と課題

現状

○全国のいちごの現状

いちごの作付け面積は全国的に減少するなか、1世帯あたりのいちご購入の年間支出額は横ばい（やや増）であるが、今後人口減少により将来的にいちご消費全体が大幅に落ち込むことが懸念される。

○JA島原雲仙のいちご

平成29年度から海外輸出に取り組んでいる。主にタイ、香港、シンガポールに輸出しており、通常の輸出・販売に加え、マスコットキャラクター入りトートバック配布などPR活動を行い、販売促進を図っている。

課題

○流通面

那覇空港を経由した空輸だと、商品の傷みが目立つ。

○販売面

現地販売店舗がまだ少ない。「オープンパッケージでは顧客が商品に触ったり、持帰る時いちごが打撲して傷むのではないか」との現地意見あり。



2. 輸出事業計画の取組内容

取組

○流通面

果皮の硬い「ゆめのか」「恋みのり」を輸出向け品種とする。

福岡空港から現地へ直接空輸する量を増やす。

いちごフェア等の開催やプロモーションビデオの製作・活用により商品及び産地の認知度向上を目指す。

○販売面

販売店頭以降の傷みを防ぐため、蓋付のパッケージを用いる。

包装表記を英文・ローマ字で記載し、産地・商品情報をわかり易くする。

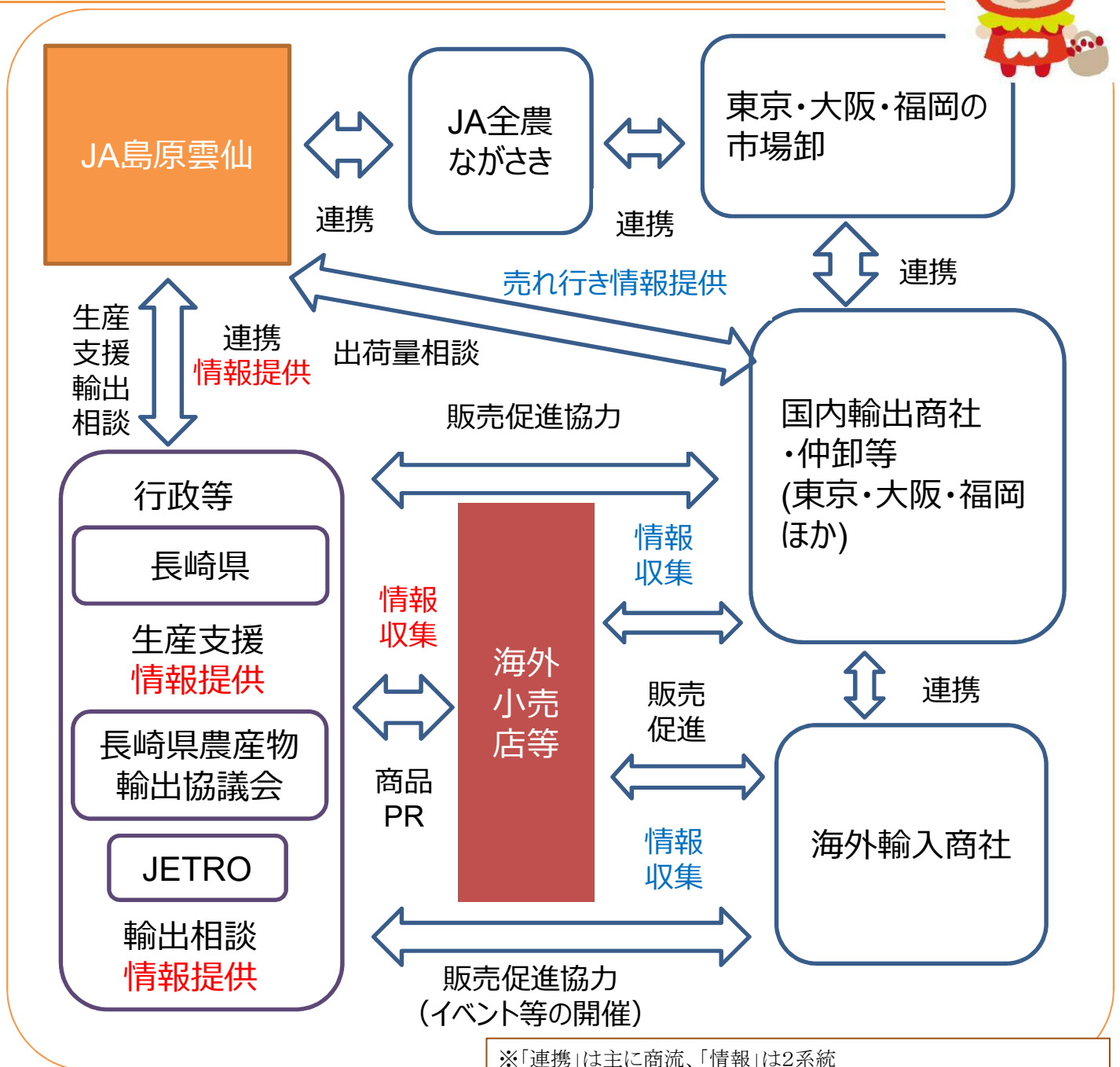
新たな販路としてマレーシアへ輸出を行う。

○施設強化（生産・流通面）

新たに集荷場を建設することで、輸出品の仕分けの面で流通効率化をはかる。あわせて、輸出先国向けの施設登録をすすめる。



3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和2年度）	目標年（令和8年度）
輸出額	72,770 千円	80,000 千円
輸出量	54.7 t	60.0 t
輸出先国	タイ、香港、シンガポール	タイ、香港、シンガポール、マレーシア